

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2530102074
法人名	医療法人 白桜会
事業所名	グループホーム さくら
訪問調査日	2007年 8月 30日
評価確定日	2007年 11月 16日
評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年9月1日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 2530102074
法人名	医療法人白櫻会
事業所名	グループホーム さくら
所在地	大津市大石東四丁目5-6 (電話) 077-546-5167

評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会
所在地	滋賀県野洲市富波乙681-56
訪問調査日	平成19年8月31日

【情報提供票より】平成19年9月1日

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 3 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 6.8	

(2) 建物概要

建物構造	順耐火 造り
	2階建ての, 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~55,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(8月17日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1		名	要介護2	2	名
要介護3	4	名	要介護4	1	名
要介護5	2	名	要支援2		名
年齢	平均 89.2 歳	最低	81 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 緑生会 南大津クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームさくらは、大津市郊外の桜谷パークタウンの閑静な住宅街の中にあり、すぐ隣が設立母体の小金澤歯科診療所となっている。また、近くに薬局、郵便局とスーパーマーケットがあり生活に便利な所に位置している。介護事業を始めたきっかけは歯科の訪問診療であった。患者さんの様子を見て、「夜はどうしてはるんやろ?」とショートステイを始められ、それがグループホームへと発展した。昨年4月からは1階で小規模多機能型居宅介護事業を始められている。施設長の熱意あふれる導きにより、徹底した個別の対応がされており、職員さんの明るい笑顔とともに、明るい雰囲気ของกลุ่มホームである。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回も同じ評価機関の評価であったが、評価表をお送りした時点で改善され、丁寧な報告を頂いた。今回改めて確認させていただいたが、理念は見直し、検討されて、分かりやすくなっており、洗剤等も、カーテン等で工夫し、見えないように配慮されていた。カレンダー・時計等も大きく見やすいものになっており、目線の高さに置かれている。専門医との連携も密になり、現在、利用者全員が診察を受けているわけではないが、全員受診に向けて働きかけている。書類についても、かなり整理が進み、さらに簡素化し使いやすい物にしようと検討、努力中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価のためにミーティングの時間を取り、全員が評価に参加した。職員はそれぞれが思っていることを言える環境になっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者の状況を報告している。自己評価についても評価結果、改善意見、その後の取り組みについて報告している。また、地域や家族の要望を運営に取り入れる姿勢はある。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の本音がまだ聞けていないと考えておられ、どうしたら本音を言ってもらえる事ができるか模索中である。運営推進会議に家族の代表として出てくださいという方がいるが、その方を中心に家族会が持たないかと考えておられる。家族の意見を運営に生かしていこうとする姿勢は十分に持っておられると感じた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会し、自治会や敬老会の催し物には積極的に参加している。運営推進会議を開催し、地域の方にも入っていただいているので、窓口は開いたが、まだまだつながりは一部の方に限られている。例えば自治会のブロック長まではつながりが出来ても、自治会の一般会員とつながりを持つまでには至っていない。外出時に出会ったときなどは挨拶を交わし、話をする事もあるが、気軽に遊びに来てもらえるようにはなっていない。中学生の実習についても、希望しているが、今の所実現していない。アコーディオン演奏や踊りなどの定期的なボランティアには入って来</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	齢を重ねることは、それだけで意義があり尊敬されるものだという考えを根底に、日々の暮らしを支える理念が作られている。「ひとりひとりの古き佳き時代を大切にします。ひとりひとりの想いに寄り添います。ひとりひとりの今を大切にします。―一部掲載―」というような分かりやすい言葉でつくられた理念が明示されていた。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者の先頭をきっての実践、指導、ミーティングでの話し合い等で、職員も理念を理解しており実践にむけて日々取り組んでいる。職員の面接でも、理念を理解し実践に取り組んでいる様子が窺えた。		今後も折に触れて話し合い、日々の生活の中で理念にある思いが実践できるように取り組んでほしい。
2. 地域との支えあい					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の住人の介護相談などには積極的に応じており、必ず適当な社会資源につなげている。また、子ども110番を引き受けている。自治会に加入し、自治会や老人会の行事に参加している。散歩の時などに出会えば、挨拶し、話す事もあるが、遊びに来ていただけるような関係には至っていない。		入居されている方々に影響がないように考慮しながら、更に、地域の相談窓口として門を開いていってほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価もミーティングで話し合っ内容を検討した。事業所の内部にいると見えない部分を、外部評価で第三者に見てもらい、指摘してもらう事を期待されている。更により良いグループホームにしていきたいと考えておられる。今回の外部評価についても職員にはいつもどおりの動きを見てもらうようにと念を押されていた。		
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況を報告し、地域や家族の要望や意見を運営に取り入れている。評価結果、改善意見その後の取組みも報告している。		運営推進会議は、利用者家族、自治会役員、老人会役員、民生委員、地域包括支援センター職員で構成されている。地域に根付いていくために、一つの窓口として会議を開催できて良かったと言われていた。しかし、たとえば自治会にしても理解して下さりつながりが出来ているのは役員までで、一般の会員とのつながりはまだまだこれからである。地域に根ざしたグループホームになっっていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターに困難事例の相談に行ったりして連携を図っている。		グループホームが地域密着型サービスに繰り入れられ、管轄が市町村になった。行政の窓口の人は定期的に代わられるので連携をとっていくことが難しいと言われておられたが、グループホームの現状・課題等を知っていただく努力はこれからも継続してほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理の報告は毎月1回している。暮らし向きについては金銭管理報告時に文書でしたり、必要に応じて電話で報告している。職員の異動については報告していない。	○	金銭管理・利用者の暮らしぶり等についての報告はされているが、職員の異動についてはあまり報告されていない。面会の少ない家族に知らせてもどうか、と言う思いがあるようだが、面会に訪れた時に、全く知らされていない職員になっていたら家族は不安になるのではないだろうか。異動の場合、代わった事と名前だけでも知らせてほしい。
8	15	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回開催している「家族会」の時や面会時に管理者が要望等を聞き取るようにしている。家族アンケートでも、全員が聞いてもらっていると回答している。しかし、管理者は本音が聞き取れていないと考えている。今は家族会はグループホーム側がお膳立てしているが、家族が自主運営し、施設側と対等に話し合える本来の形にするにはどうしたらよいかと模索中である。	○	重要事項説明書の中に苦情申立窓口、及び苦情申立機関名が明記され、契約時に説明されており、またご意見箱も設置している。家族会の時に職員等は入らずに家族だけで話し合ってもらおうと本音が出やすい。後で代表者に要点の報告をしてもらえばよい。色々試して家族の本音が聞けるように配慮し、運営に生かして行ってほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階が小規模多機能型居宅介護施設となっている。グループホームとはそれぞれに職員を固定しているが、職員は1階の利用者とも2階の利用者ともなじみの関係が出来るようにしている。グループホームの職員の退職等の場合は、利用者のダメージを防ぐために、なじみ関係のある1階の職員に入ってもらおうようにしている。		職員がグループホームと小規模多機能施設両方の利用者となじみの関係になっておくことは、非常時などにも良い事と思う。異動も無いに越した事はないが、職員の退職時など十分になじみ関係のある人に後任に入ってもらおうようにしており、利用者への影響を考え、配慮している。このような配慮はこれからも続けてほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	伝達講習で、管理者が研修してきた事を伝えてステップアップを働きかけている。疑問に思うこと、行き詰った時等、管理者に相談する体制はできており、何でも話せる関係になっている。しかし管理者は365日24時間精神的に拘束されており大変と思った。研修については余り参加できていないようだ。	○	職員が研修に参加し他の施設職員と交流を持つ事は、現状を再点検できる機会にもなると思うので、研修に参加する機会を計画的につくって行ってほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟しており、勉強会に参加している。相互訪問等したいとは思っておられるが、現在の所まだ出来ていない。	○	同業者との相互訪問は、気付きが得られるとても良い方法であり、職員にとっても新たな目で日々の介護方法を見つける事ができる機会となるので、ぜひ、実現に向けて努力してほしい。協議会の中で、相互の職員の交換研修など、検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	以前は1階でショートステイを利用してなじんでもらっていた。現在は1階は小規模多機能居宅介護施設になっているので、以前のように利用できなくなった。本人や家族の同意が得られれば、小規模多機能型居宅介護の利用を勧めている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけ一緒に過ごす時間を持つようにしている。その際に利用者の記憶に働きかける話題づくりを行っている。以前に扇風機の話が出たとき、初期の扇風機の話話される利用者があり、その扇風機の写真を探してきて飾ってあった。又、京都の事を良く話される利用者のために、京都の風物の写真が飾られていた。		当日は昼食後アコーディオンのボランティアが来てくださるので、全員食堂におられたが、職員は間に入って利用者として話していた。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言ったことや行動を出来るだけ記録し、その奥にある希望や意向を抽出するように努めている。記録方法を変え、ご本人が言ったこと、した事等を細かく記録するようにしている。何を記録すればよいのかと言うことが職員にも理解されてきた所である。		更に個別のファイルを充実し、見やすい介護記録にするにはどうすればよいか模索中である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は管理者が立てている。日々の介護記録に、職員の気づきが書かれており、それらも参考にしながら、また本人家族の意向も聞きながら介護計画が立てられている。また、作成した介護計画に対しても、職員が意見やアイデアを出している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月に1度見直しているが、状態急変時にはその都度本人や家族、主治医等と相談して見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関以外に、利用者の個人的な主治医を利用している方もあり、その場合はなるべく家族で通院をお願いしているが、都合がつかないときは、通院介助をしている。また医療連携体制をとっており、日勤帯には看護師がおり、病気の早期発見に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外にも家族や本人の希望に基づく主治医がいる。これまでの生活で長年つながりのあった主治医との連携を大切に考え、本人・家族の希望に添うようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の施設側の考え方の指針を作り、家族に説明している。主治医・家族の相談も行っている。	○	死亡の形として、病死・事故死・自然死の3つが考えられる。グループホームの終末期としては自然死の場合であるが、まだグループホーム内で看取った経験はない。管理者の考えとしては自然死の場合も最終的には家族は病院を選ぶだろう、ということであったが、本人の希望とともに迷っている家族の本音を引き出し、キーパーソン以外の家族も巻き込んだ、きめの細かい対応を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報は詰所で保管している。言葉かけや対応の面では、理念の根幹にある高齢者を尊敬すると言う事が徹底されており、職員間で言葉遣い等お互いに注意しあう関係が出来ている。		職員の表情は皆明るい。言葉掛けも穏やかで自然である。利用者を大切にしたいと言う気持ちが伝わってくる雰囲気であった。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりは出来るだけ少なくしている。一人ひとりのペースに添った対応が試みられている。訪問当日はボランティアのアコーディオン演奏があり、懐かしい歌を皆さんで歌っておられた。普段は昼食後は自室に帰られて昼寝をされたり、1階へ遊びに行ったりされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	気分がのれば、野菜を切っていただくこともある。盛り分けや配膳を手伝っていただき、職員も間に入ってさりげなく介助しながら食事している。中にはスプーンを利用する方もあるが全員が自力で食べておられる。		利用者の状態が様々なので、下膳等も出来る方は限られているように見受けた。なるべく出来る方にはお手伝いしていただき、感謝を伝えるようにしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日に3回入浴時間が設けてあり、好みの時間に入浴して頂いている。かなり広い、家庭的な風呂場である。車いすの方は1階の風呂に入って頂いている。入浴を嫌がる方が1名あるが、様々な工夫をして入って頂けるように支援している。一人ひとりの状態を把握して個別にしっかりと対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の能力に合わせて家事の役割を持っている。ボランティアのアコーディオン演奏で歌を唄ったり、やはりボランティアの踊りを見たり、階下へ遊びに行ったり、季節には花見に出かけたりしている。一人ひとりの生活歴は家族や本人から聞きだすようにしている。		京都に住んでいるとよくおっしゃる方があり、その方のために、食堂の壁に京都の風物の写真が飾られていた。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材は献立材料を業者に入れてもらっているが、それでもほぼ毎日買物に出かける。その時には一緒に出かけている。又戸外の散歩もその方の力に合わせてするようにしている。		個人的な個別の買物(例えばお菓子等)もしている。その時は、自分で金銭管理している方を除き、お財布を渡して、支払っていただいている。お金を払わないで品物を持って出ようとされる方があり、商店側に説明し理解をしていただくようにしている。これからも商店や近隣の方々の理解を深める努力を続けてほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。消防署からは防災の面から、夜間もなるべく施錠しないようにと指導されているが、防犯の面から、夜間は簡単な施錠をしている。グループホームは2階にあるが、エレベーターを操作し、階下に下りて外へ行かれる方もある。警察にお願いした事もあるが、日中は施錠はしていない。2階の非常階段は危険なのでセンサーがなるようにしてある。		外へ出て行かれることもある、と言うリスクをかかえながら、鍵をかけないケアを実践している。幸いグループホームは住宅街にあるので、前の通りは車の通行が少ないので助かっている面がある。近隣の住民、商店の人たちに理解して頂き、見かけた時には声をかけるなどしていただけたような取り組みをすすめて欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により、年間2回の避難訓練を実施している。避難後の利用者の保護については、自治会に依頼し、話し合っている。		避難訓練は、利用者も一緒にするのが本当かもしれないが、あとで混乱し不穏になる方もおられるので、職員が代わりの役をして行っている。夜間は1階、2階、2名の夜勤者がいるが、夜間を想定した訓練も行われている。なかなか覚えられないということだったが、これからも定期的に実施して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立別の食材を購入しており、カロリーは計算されている。摂食量や摂取した水分の量は自力で飲む方は別にして、きちんと記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、季節の花が飾られ、利用者それぞれの思いのこもった物が飾られている。畳のコーナーもあり、そこで昼寝する方もいる。明るく、暖かい感じの空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具のある部屋もあったが、少なかった。防災の面から、心身機能の状態に合わせて家族と相談して引き取ってもらった物もあるということだった。ご主人の写真に花と供物が供えられている部屋もあった。それぞれその部屋の住人の方の個性豊かな部屋になっている。		